



校長室より

「若桜谷観光号」に思う



校長 木下 俊児

今月中旬の土曜日の朝、所用で若桜鉄道を利用する機会があり、鳥取駅から若桜行き1両編成の列車に乗り込みました。発車後しばらくして、若桜鉄道株式会社代表取締役の山田和昭さんがいらっしゃることに気づきました。山田和昭さんは、若桜鉄道の沿線人口の減少などによる苦しい経営状況の中、外部の発想を取り入れようと全国公募で選考された社長さんです。先日、本校1、2年生を対象に、人生の先輩の生きがいや夢、体験談などを聞き、自分の生き方を考えるきっかけとすることをねらいとして開催した「生き方講座」の講師としてお招きした方です。

山田社長は、乗客一人ひとりにパンフレットを配り、観光列車のPRをされていたのです。私は、この時、偶然乗り合わせたこの列車が、定期観光列車「若桜谷観光号」であることにやっと気がつきました。乗客はわずか20名ほど、観光客らしい人は見当たりませんでした。社長自ら自社のPRをされていることに驚くとともに、一人ひとりに丁寧にお話されている姿に、若桜鉄道の経営再建と若桜谷の活性化に向けての強い意気込みを感じました。私もパンフレットと黒豆茶のサービスをいただき、温かな気持ちで、降車した因幡船岡駅までのミニトリップを楽しむことができました。

私たちは、これまで、経済優先、効率優先の世の風潮の中、便利で快適な生活を享受してきた半面、地方の豊かな文化や地域の活力を失いつつあります。加速度的に拍車がかかる過疎化や価値観の多様化なども追い打ちをかけているかも知れません。しかしながら、私は、おそらく単に経営再建のためだけではない、地方文化の創生と地域活力の創造のために知恵を絞り奮闘されている山田社長の姿に接し、私たちも、故郷を想い人の役に立つための志を高く持つ青年を育て、実生活に生きる地域とつながる教育を大切にしていかなければならないと強く思いました。そして、「そのための材料や資源は目の前に（若桜谷に）豊富にありますよ、しっかり知恵を出し合ひましょう。」そう励まされた気がしました。

八頭郡中学校 科学研究発表会



12月5日(金)に八東体育文化会館で八頭郡中学校科学研究発表会がありました。

1年生の佐々木里菜さん、2年生の小嶋愛李さん、上月美郷さんが船岡中学校の代表として参加し、佐々木さんが優秀賞、小嶋さんと上月さんが優良賞を受賞しました。

生徒会球技大会



12月8日(月)、生徒会企画で球技大会が行われました。「応援や協力を通して団結力を高め、絆を深める」という目的のもと、男女別クラス対抗(1年女子は2チーム)でサッカーが行われました。雪が降った後の少しぬかるんだグラウンドで、試合の時は泥に汚れるのも構わず、チームのために力いっぱいプレーしました。応援にも熱が入り、寒さを吹き飛ばして皆が一体となって楽しみました。



いのちの出前授業

12月10日(水)、1年生を対象に、いのちの大切さを伝え隊としてご活躍の助産師 本家勇子さん、平井和恵さんにお越しいただき、「いのちの旅」「いのちの誕生」についてお話をいただきました。授業の中で、小さな豆粒のような大きさから少しずつ大きく育って生まれてくるまでの、さまざまな大きさ・重さの赤ちゃん人形を実際に全員が抱いてみました。また、赤ちゃんの心音や産声を聞く体験などを通して、自分たちも大切に育てられ待ち望んで生まれてきたことに改めて気づき、おうちの方への感謝の気持ちと自分や周りの人すべての命の大切さを感じ取ることができました。



凡事徹底 ～更なる高みをめざして～Ⅱ

後期生徒会スローガン「華締(けじめ)」の達成に向けて、執行部と専門委員長が掲げた「できなんじゃない、やるんだ!」という目標の下、環境委員会を中心に取り組んでいる『無言掃除』を第157号で紹介しました。

無言掃除は、別名自問掃除ともいい、①15分間一人で黙々とする中で「我慢する心」、②周りの様子を見て助け合って掃除することで「親切な心」、③他の人の気が付かない場所や方法で掃除することで「気付き心」、④場所や他の人への感謝の気持ちを込めて掃除することで「感謝する心」、⑤自分自身の心の尺度に問いかけ、掃除したいから自分にできる精一杯で掃除することで「正直な心」の5つの心を磨きます。より充実した無言掃除を実施するために、環境委員や代議員がリーダーとして、全校に働きかけています。

